



JAPANESE A1 – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A1 – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A1 – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Friday 15 November 2002 (afternoon)
Vendredi 15 novembre 2002 (après-midi)
Viernes 15 de noviembre de 2002 (tarde)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write a commentary on one passage only. It is not compulsory for you to respond directly to the guiding questions provided. However, you may use them if you wish.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- Ne pas ouvrir cette épreuve avant d'y être autorisé.
- Rédiger un commentaire sur un seul des passages. Le commentaire ne doit pas nécessairement répondre aux questions d'orientation fournies. Vous pouvez toutefois les utiliser si vous le désirez.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un comentario sobre un solo fragmento. No es obligatorio responder directamente a las preguntas que se ofrecen a modo de guía. Sin embargo, puede usarlas si lo desea.

次の 1 (a) の文章と (b) の詩のうち、どちらか一つを選んで解説しなさい。
(コメントリイを書きなさい。)

1 (a)

彼女は電卓を叩きつづけた。テレックスを打つように。

アナタニトツテハ シゴト イガイノコトハ カタイモ コドモモ ザツヨウナノデ
シヨウカ。

5 SOS キチヨリ センセンニツグ。シキユウ キカンセヨ。SOS。キチヨリ
ンセンニ ツグ。シキユウ キカンセヨ。

ーオウトウナシ。

ワタシハ モウ アナタニ ヨビカケル コトモ シナクナリマシタ。アンタノ
タコモツタ オトコノシゴト トイウ ダイガラング ガランドウ ダト シツテシ
マツタカラデス。

10 コノゴロ ワタシハ ユメ ミマス。ニギテニ シミジミ ノ チイサナ テ。ヒダ
リテニ モット チイサナ ホトホト ノ テ。サンニン テ ラ ツナイデ アル
イテユク ジブシノ ウシロスガタ ラ。ナゼ ソウ シナイノカ。ソレハ コドモ
タチガ アナタ ラ スキ ダカラデス。

*

(中略)

15 風が鳴り、カサカサと音をたてて枯れ葉が路地を走っていった。母親は、布団をも
う一枚ずつ掛けてあげようと、少年たちの部屋へ行った。

兄シミジミ少年の部屋はからっぽだった。

ベッドのネジを抜いて壊してしまったために、畳の上に布団を敷いて寝ているホト
ホト少年の、隣の部屋のドアを開けると、真っ暗である。

20 突然、真っ暗な部屋に、ぼたん雪のような光が舞いはじめた。彼女はめまいしそう
になり、立ちすくんだ。

「きれい。これ、なあに。」

「プラネタリウム。お兄ちゃんが作ってくれたの。」

25 兄はティッシュペーパーの空き箱に小さな穴をたくさんあけ、中に懐中電灯を入れ
て、ゆっくり回していた。兄弟は四角い部屋の底に布団を二つ並べ、あお向けになっ
て天井を見上げている。

彼女はしばらく少年たちの枕もとに座って、天井と壁と屋を見ていた。懐中電灯と
星穴との焦点距離や、動かし方によるのか、光は小さなはつきりした星になったり、
星雲のようにぼやけたり、流れる星のようになりたりした。

「きれいね。」

30 「きれいだね。」

「お母さんも今夜はここに寝よう。」

ドアをぴたり閉ざすと、外からの明りはどこからも入ってこない真っ暗闇になった。彼女は手探りで、二人の少年の間にもぐりこんだ。

35 暗黒は天井や壁の距離を消し、その中に浮かぶ光の点々は、果てしない宇宙空間の何億光年の距離をつくりだした。

現実の世界の中に切り取られて箱型の宇宙の底に、三人は仰向けに横たわっていた。天もなく、地もなく、涯はてもない、広漠とした宇宙空間。アアと声を出せば、それはどこまでも細い糸を引いて、無限の闇の広がりの方方に吸い込まれていきそうだ。

40 腕を伸ばしても何にも触れず、返ってくるもののない暗黒空間に、三人は浮遊しはじめていた。星がゆっくりと回りはじめた。三人はその中心にむかって漂いながら、だんだん、だんだん、小さくなり、極微小の宇宙塵となりつつあった。
アアアア。

彼女の声が細い細い糸を引いて、無限の闇の広がりのかなたに消えていった。それは哀しみの声ではなく、ひそかな歎なげびの声のようでもあった。

(千狩ちかあがた『ウホッホ探険隊』、一九八三年)

千狩あがた (一九四三〜九二) 小説家。

「プラネタリウムは、シニシニ少年、ホトホト少年、母親の三人にとって、どのような世界ですか。」

「この場所に居ない「父親」は、三人にとってどのような存在でしょうか。」

「母親の声が「哀しみの声ではなく、ひそかな歎なげびの声のよう」に聞こえるのは、どうしてでしょうか。」

1 (b)

凧

夜明けの空は風がふいて乾いていた
風がふきつけて凧がうごかなかった
うごかないのではなかった 空の高みに
たえず舞い颯あざろうとしているのだった

5 じじつたえず舞い颯あざっているのだった
ほそい紐ひもで地上に繋がれていたから
風をこらえながら風によって
こまかに平均をたもっているのだった

ああ記憶のそこに沈みゆく沼地があり
10 滅び去った都市があり 人々がうちひしがれていて
そして その上の空は乾いていた――

風がふきつけて凧がうごかなかった
うごかないのではなかった 空の高みに
鳴なっている唸なりは聞きとりにくかったが

(中村稔『樹』 一九五四年)

(注) 中村 稔 (一九二七年～) 詩人。

― 詩人は凧をどのように見えていますか。

― この詩で、詩人がソネット形式 (十四行詩) を採用していますが、その形式はどのような効果を上げていますか。

― 凧は人間の存在のどのような面を象徴していると思いますか。